



一般社団法人 高知県作業療法士会
 会員数 734名 (平成31年1月末現在)

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

136号
 発行2019.2.20

発行所：一般社団法人
 高知県作業療法士会 広報局
 事務局：〒780-0870
 高知県高知市本町5丁目6-48
 本町深田ビル 5階 南号室
<http://kochiot.com>

発行 平松 真奈美
 編集 森 祐輔

公開講座ならびに 第2回特別支援教育部研修会を開催して

特別支援教育部 部長 篠田 かおり (高知リハビリテーション学院)

平成31年1月20日(日)土佐リハビリテーションカレッジにて、酒井康年氏(作業療法士 うめだ・あけぼの学園)を講師にお招きし、公開講座ならびに第2回特別支援教育部研修会を開催しました。

午前に開催した公開講座のテーマは、「作業療法士から見た発達障害児の特性」です。参加者は会員58名、保育士、学校教員、県の教育委員会などの一般参加者92名、計150名と多くの方が参加してくださいました。発達障害児の特性について、忘れ物などの具体的な行動を挙げ、その原因と対応方法を説明していただきました。アンケートでは、「(教育とは)違った視点で学ぶことができた」、「具体例を交えて話して下さったのでわかりやすかった」、「保育・教育の現場で実践したい」といった意見が多くありました。今回の公開講座は、保育・教育現場の方々に作業療法士の専門性を認識していただく良い機会だったと思います。

午後の会員向けの研修会のテーマは「幼稚園・保育園・学校現場での評価と対応方法」でした。発達障害分野の経験がある方に加えて、これから施設で発達の受け入れを始める方や精神分野の方など、42名の会員の参加がありました。学校・保育現場で評価する際、こどもの行動に焦点を当てる必要があること、そのためには活動分析、作業分析が重要であることを改めて再認識しました。巡回相談員として活躍していただいている方は、日ごろの実践について振り返る機会になったのではないかと思います。また、行動評価や面接の方法など、精神分野の実践が活かされる内容も多く、保育・学校現場の経験がない方にとっても、評価する視点について多くのことを学べたのではないかと思います。

来年度も、研修会を企画・開催していきますので、分野を問わず皆様方の参加をお待ちしております。

講師 酒井氏

生活行為向上マネジメント (MTDLP) 院内研修に取り組んで

地域包括推進部 地域ケア会議班 杉本 徹 (リハビリテーション病院 すこやかな杜)

リハビリテーション病院すこやかな杜は、60床と中小規模ではありますが回復期病棟を有し、退院ではなく、生活行為にある不安を払拭することを目標に取り組んでいます。

ただ、在宅にむけての取り組みの中、退院後の生活場면을イメージすることが苦手なスタッフも少なくありませんでした。そのため、指導方法に悩むこともしばしば。そんな時に参加した「生活行為向上マネジメント基礎研修」で、対象者の「したい・する必要がある・することが期待されている生活行為」に焦点をあて、その「継続性」を実現するために、個人の活動にとどまらず地域の社会資源の活用まで幅広く捉える包括の視点を持った「作業療法を見える化」したツールであることを学びました。これをスタッフと一緒に学ぶことで、退院後のイメージを具体的に持てると考え、研修で講師をされていた、下村美穂氏(みなみの風診療所)に依頼し、当院でMTDLP研修をしていただきました。

研修は、月に1回、合計4回の短期開催。インテーク、アセスメント、課題分析らが一連のサイクルであると確認し、臨床実践から事例発表、そして研修参加者で質疑応答を繰り返し、回数を重ねるごとに少しずつ対象者を「生活する人」として総合的に捉えることが今までよりも意識できるようになってきました。

研修が終了してからも、当院では作業療法部門の院内研修において月に1回、スタッフが持ち回りで事例報告を行い、内容を確認し合っています。以前と比べ、退院後の生活場面について多くの意見が聞かれるようになり、個人でなく事業所としてMTDLPに取り組むことで成果を得られたと感じています。現在、士会でもMTDLPの施設向け研修などを開催しています。

対象者や地域を元気にできる事業所になりませんか?ぜひ、おすすめします。

高知県作業療法士会主催 災害対策研修会を終えて

災害リハビリテーション委員会 委員長 畑田 早苗 (土佐リハビリテーションカレッジ)

平成30年11月17日(土)に災害対策委員会主催の災害対策研修会を開催しました。今回の研修会も昨年に引き続き2部で構成し、前半は、「もっと学ぼう南海トラフ地震～今すぐ始める南海トラフ地震の備え～」高知県出前講座、高知防災備えちよき隊長の北川尚氏によるご講演、後半は、淡野義長氏(長崎リハビリテーション病院)をお招きして、災害発生に対しての初動に備えるご講演と実践を交えたグループワークを実施しました。

前半の北川氏のお話は、昨年の南海トラフに備えるというお話に連動したもので、昨年の基礎的なお話に続いてより具体的で分かりやすい危機感を感じさせられる貴重なお話でした。また淡野氏は、今年度士会で災害対策マニュアルを作成する準備があることをお伝えしていたので、より実践的な内容でご講演とグループワークを準備してくださいました。ご講演では、まず高知県で地震が発生した際に職能団体がどのように対応しなければいけないのかをお話ししていただき、早速グループに分かれての想定される事態に対して自分たちがどのように対応しなければいけないのかを考えるシミュレーションを実施しました。災害対策本部を想定したグループワークにおいて順次入ってくる情報に対して的確に処理していく練習に参加者全員が緊張感をもって取り組みました。

今後は、さらにネットワークの強化と今回のようなより実動的な研修を繰り返し、私たちの災害時の機動力を高める意識を高めていきたいと思います。また皆さんと協力して取り組んでいきたいと思います。



講師 北川氏



講師 淡野氏

介護支援専門員研修会での講演を終えて

地域包括推進部 MTDLP班 下村 美穂 (みなみの風診療所)

平成30年9月17日に高知県介護支援専門員連絡協議会のご協力をいただき、介護支援専門員スキルアップ研修会において、MTDLP班が目指していた合同研修を行うことができました。今回は、約80名のケアマネジャーの皆さんに、「地域包括ケアシステム実現に向けた自立支援のためのケアマネジメント～作業療法士からのご提案～」をテーマに、作業療法士の専門性である生活行為の見立て方、ケアマネジメントへの応用例を中心とした講演と、入浴行為に焦点化したグループワークを行いました。

研修後のアンケートでは、「今後、自立支援型マネジメントにおいて作業療法士を活用したい」との回答が全体の93%を占めました。しかし、作業療法士への期待や提言の中で、入院中の家庭訪問の適切な時期や回数の検討、自宅環境に合わせた移動やADL訓練を行い、退院後の課題点を通所リハや訪問リハへつないでほしいというリハビリテーションの内容や退院支援の在り方についての意見が多く聞かれました。具体例として、「認知面・高次機能面の情報が少なく、生活にどう影響するのか、具体策が少ない」「退院前の家庭訪問日が遅すぎるのでは」「退院後に気軽に相談ができるセラピストが周りにいない」等の意見をいただきました。

私たちは、自身や自施設の取り組みを振り返る機会とし、マネジメントを強化せねばなりません。

MTDLP班では同時に、せっかくだいたこの連携のチャンスを2019年度の活動につなげる予定です。例えば、高知県介護支援専門員連絡協議会のブロック研修会に作業療法士が参加して職種間の理解を深め、事例検討会の合同開催等ができるような2019年にしたいと考えています。ケアマネジャーさんに頼りにしてもらえたい職種でありたいと思います。

第1回地域作業療法研修会のお知らせ

地域包括推進部 部長 有光 一樹 (高知リハビリテーション学院)

平成31年3月23日、24日に高知市文化プラザかるぼーとにて、第1回地域作業療法研修会を開催いたします。高知県は高齢化率が高く、地域ケア会議や介護予防事業、認知症初期集中支援チームといった地域支援事業の必要性があり、作業療法士の専門性は、地域に大きく貢献できると思われれます。今年度の地域包括推進部は、地域に関する人材育成研修修了者も徐々に増加してきたため、今後どのように実践へつなげるのかを重要な課題としています。

研修会の内容は、全国で活躍されている長倉寿子氏(順心リハビリテーション病院 地域リハビリテーション副センター長)、高知県地域福祉部高齢者福祉課 課長補佐の酒井美枝氏、また高知県で実践されている方々に報告していただき、従来の作業療法に加えて、今高知県でどういった作業療法士が必要となっているかなど、みなさんに地域を知っていただける企画としています。ぜひ、参加のほどよろしくお願い申し上げます。

第1回 地域作業療法研修会

病院で働くOTも地域で働くOTも みんなでやろう 地域支援事業!

平成31年 3月23日(土) 24日(日)

<時間> 土曜日:13時30分～16時30分(受付13時開始)
日曜日:9時～12時(受付8時30分開始)

<会場> 高知市文化プラザ かるぼーと 11F 大講義室
高知市九反田2-1

<内容> 別紙プログラム表を参照

一般社団法人 高知県作業療法士会